人ノ死ノ時刻ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38093

々之ニ向テ特ニ奬勵ヲ加フルコトヲ得。

斯クノ如ク各學校ノ比較各學年別ノ調査ヲナシ之ヲ益々有効ナラシメンニハ、同一ノ標準ヲ以テ毎年連續セザルベカラズ、單ニ一二ケ年位ノミノ成績ニテハ眞ノ價値ハ認メラレズ。

斯クシテ身體檢査ヲ嚴ニシ此結果ヲ極メテ精確ニ調査シ、之ヲ以テ根本トナシテ此後ノ方針ヲ定メ、同時ニ毎月頻回各學校ノ衛生狀況ヲ比較シテ長ハ益々助ケ足ラザルヲ補フテ進ムトキハ以テ其効果ヲ得ベク、學科ノ調査ト共ニ發育衛生上ノ調査ヲ進メタキコト希望ニ堪ヘズ、尙此等ノ方法ニツイテ先輩諸彥ノ敎ヲ乞ハントス。

◉人ノ死ノ時刻ニ就テ

金澤醫學專門學校內科敎室
近藤清吾（四二年卒業）

第一　緒論

死ハ生活界ニ於ケル必然的現象ナリ。然ラバ死トハ何ゾヤ。試ミニ之ヲ宗敎的ニ觀ヨ、乃至ハ亦是ヲ哲學的又ハ生物學的ニ觀察セヨ。其立場ノ異ルニ從ヒテ、其說ク所モ亦多少ノ差異アルベシ。生理學的ニ之ヲ觀察セバ、死ニ對スル定義ハ一見簡單明瞭ナルガ如シ。曰ク、死トハ生活現象ノ廢絕ナリ（蘇生スベキ能力ヲモ絕滅セラレタル）ト。然ラバ生トハ何ゾヤ。生ヲ知ラズシテ死ヲ說クコトハ難カルベシ。又生アルモノハ何故ニ、否如何ニシテ死スベキカ。之ニ對シテ種々ノ學說アリト雖、未吾人ヲシテ十分ニ首肯セシムルモノナキガ如シ。生ト云ヒ死ト謂フ、答ヘ易キガ如クシテ遂ニ紛糾又紛糾、容易ニ迷宮ニ入リ易シ。依然死ハ永遠ノ神祕ナル？

生アル者ハ死スベシトハ不變ノ原則ナリ。而カモ生物ノ原始トモ見ルベキ「アメーバ」ハ如何。彼ノ一箇ノ母細胞ハ分裂シテ二箇ノ娘細胞トナリ、其分裂シタル各箇ハ更ニ分裂シテ四箇トナリ、遂ニ其止ム所ヲ知ラズ。而シテ遂ニ彼ニ死アリヤ。斯クノ如ク、吾人ガ最普通視シテ怪マザル死ノ現象ニ對シテモ、幾多ノ興味アル問題アリ。

カーリングトン（死ノ研究ノ著者）曰ク、

死ニ關スル研究書ヲ涉獵スレバ、其如何ニ貧弱空乏ナルカヲ見出スベシ。此重要ニシテ玄妙ナル現象ニ對

シ、何等ノ興味ヲモ感ゼザルニ至リテハ豈驚カザルヲ得ンヤ。醫師ハ一年ノ間ニ幾多ノ死者ヲ研究スベキ機會ヲ有スト雖、實際此狀態ニ關シテ一ツモ何等興味アル言ヲ發セザルナリト。

實ニ吾人ガ、唯單ニ人ノ死ノ刹那ニ於テスラ、其觀察スベキ事項ハ必シモ一ニシテ足ラザルベシ。余モ從來死ニ關シテ多少ノ興味ヲ感ジタリト雖、余ノ淺學不才、素ヨリ深キ研究的業績ヲ遂ゲタルニアラズ。斯クノ如キハ宜ク賢明ナル學者ノ眞摯ナル研鑽ニ俟タザル可カラズ。然レドモ大洋ノ偉觀モ素是細流ノ集リナリ。蓋余ガ今茲ニ人ノ死ノ時刻ニ就キテ、聊論述セントスル無益ノ業ニアラズト信ズ。

第二　死ノ時刻ニ對スル余ノ興味

余ハ他ノ或ル目的ヲ以テ金澤病院ニ於ケル死亡統計調査中、人ハ元來何時死スルモノナルカニ想到セリ。即人ハ一日二十四時間中如何ナル時刻ニ好ムデ死スルモノナルカ。余ハ此處ニ一種ノ詩的感興ヲ以テ、人ノ死ノ時刻ソ調査ヲ試ミントセリ。余ノ寡聞未之ガ具體的文獻ヲ知ラズ。亦同僚知己ノ實驗ニ徵スルモ、夜明ニ多數ナラント云ヒ、夜間ニ多シト答フル人アリテ一決セズ。是亦余ガ實施的調査ニ多少ノ興味ヲ感ジタル所以ナリ。

第三　余ノ調査材料

余ノ調査材料ハ、當校附屬金澤病院ニ於ケル明治四十年ヨリ大正三年六月ニ至ル病的死亡者ナリ。死亡ニ病死●老衰病●變死等ノ區別アリ。眞ノ老衰ハ以テ自然死 der natürliche Tod トモ云フヲ得ベク、病死ハ以テ不自然死トモ見ルヲ得ベシ。各國ノ統計ヲ通覽スルニ、所謂老衰死トシテ擧ゲラレタルモノモ、決シテ僅少ニアラズ。然レドモ眞ノ老衰死又ハ自然死ハ、爾カク多數ナラザルベシ。而シテ余ハ所謂老衰死等ニ關シテハ、當該官房其他ニ就キテ調査セント試ミシモ、斯カル官衙ニ於ケル材料ハ、決シテ精確ヲ保シ難キヲ注意セラレタルヲ以テ止ミタリ。

第四　余ノ調査成績

余ハ前述セルガ如ク、金澤病院ニ於ケル明治四十年ヨリ大正三年六月ニ至ル病的死亡者一千一百八十名ニ就キテ、之ガ調査ヲ試ミタリ。今其各一時間ニ於ケル死亡數ノ總表ヲ掲グレバ、左ノ如シ。

第一表

時	刻	死亡數	時	刻	死亡數
午	I	五三	午	I	三七
	II	四九		II	五二
	III	四八		III	八四
	IV	二五		IV	五七
	V	五六		V	五三
	VI	五一		VI	四七
	VII	六七		VII	四〇
	VIII	四四		VIII	五二
	IX	四五		IX	三八
	X	五七		X	三九
	XI	五二		XI	四六
	XII	四四		XII	四四
前			後		

表中例之バ午前1トアルハ夜十二時ヨリ午前一時ノ間ヲ示ス表ノトス。但シ夜十二時ノ死亡者ハ午前ニ加ヘズ、即夜十二モ幾何分ヨリ午前正一時マデノ死亡者ヲ數ヘタリ。以下此例ニ倣ヘリ。

是ニ由リテ之ヲ觀レバ、午後二時ヨリ三時ノ間最人ノ死亡數多ク、之ニ次ゲルハ夜明ノ六時ヨリ七時ノ間ニシテ午前九時ヨリ十時ノ間、午後三時ヨリ四時ノ間ハ第三位ナリ。然レドモ斯クノ如キ短時間ニ於テ、死亡數ニ多少ノ差アリト雖、之ガ科學的說明ヲ加ヘントスル場合ニハ價値至ツテ少シ。如何トナレバ、午前ノ三時ト云ヒ四時ト云フモ、外界ノ影響及肉體竝ニ其他ニ於テ大ナル變化ナキガ故ナリ。故ニ余ハ一日二十四時間ヲ大體晝ト夜トニ區別シ、此兩者ヲ再二分シテ、其間ニ於ケル死亡數ヲ比較セリ。之ヲ表示セバ次ノ左シ。

第二表

時刻	死亡數	同 %
自午後六時至夜十二時	二五九	二一・九%
自夜十二時至午前六時	二八二	二三・九%
自午前六時至正午	三〇九	二六・二%
自正午至午後六時	三三〇	二八・〇%
計	一一八〇	

表ノ示ス所ニ據レバ、人ノ死ハ最多ク正午ヨリ午後六時ノ間ニ起リ、午前六時ヨリ正午ノ間之ニ次ギ、夜ノ十二時ヨリ午前六時ハ第三位ニシテ、午後六時ヨリ夜十二時ノ間最小ナリ。是吾人ノ想像セザリシ處ナリキ。然レドモ其差ハ比較的僅少ニシテ、差ノ最大ナルモノヲ比較スルモ六%ノ差ニ過ギズ。卽約一千人中六十人ノ差ナリ。

尙之ヲ晝（自午前六時至午後六時）ト夜（自午後六時至午前六時）トニ區別セバ、晝間ノ死亡數ハ五四・二%、夜

間ノ死亡數ハ四五・八％ニシテ、其差ハ約一〇％ナリ。而シテ之ガ七箇年半ニ於ケル各年ノ死亡者統計ヲ造ルモ、總表ニ於ケルガ如ク、依然晝ニ死亡者ノ多キハ異ルコトナク、之ヲ男女ノミニ就キ、又ハ之ヲ四季ニ區別シテ比較スルモ、常ニ死亡者ハ晝ニ多シ。是亦余等ノ想像セザル所ナリキ。但シ之ヲ各疾病ニ區別シ、統計ヲ試ミタルニ、其數ノ少キタメカ、種々ノ結果ヲ生ジタリキ。尙學兄中村欣一郎氏ノ與ヘラレタル金澤市櫻木病院（傳染病院）ノ死亡者ノ約三百名ノ統計モ、右記ノ表ト稍一致セル成績ヲ得タリ。但シ前記一千一百八十名中ニハ中村氏ノ與ヘラレタル三百名ヲ含マズ。

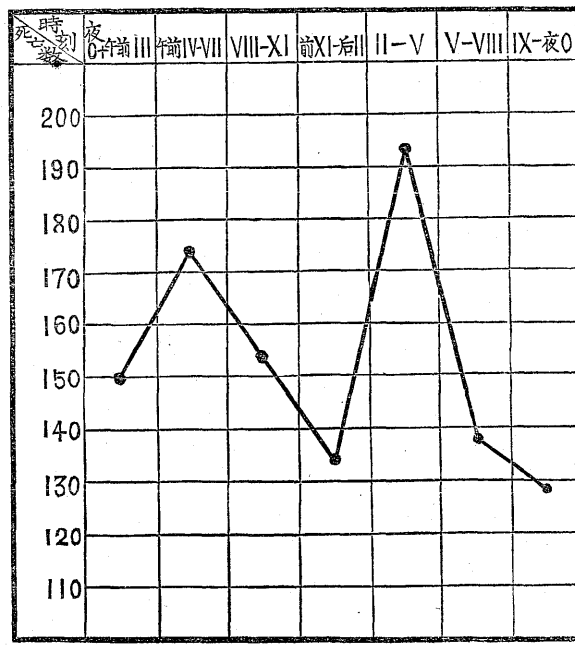
若夫レ一日二十四時ヲ三時間位ニ區分シ、其最死亡者ノ多キ時刻ヲ求ムレバ、次表ノ如クニシテ、之ヲ歐米ノ文獻ニ對比セバ多少ノ興味アラン。

第三表

時刻	死亡數
自夜十二時至午前三時	一五〇
自午前四時至午前七時	一七四
自午前八時至午前十一時	一五四
自午前十一時至午後二時	一三三
自午後二時至午後五時	一九四
自午後五時至午後八時	一三九
自午後九時至夜十二時	一二九

右表ヲ見易カラシメンガタメ、弧線ヲ以テ表セバ次ノ如シ。

第四表



此表ニ據レバ余ノ統計ニ於テ、人ハ午後二時ヨリ五時ノ間ニ最多ク死シ、之ニ次ゲルハ午前四時ヨリ七時ノ間

ナリ。前者ハ後者ヨリ死亡數二十名多シ。第三位ニ位スルモノハ午前八時ヨリ十一時ノ間ニシテ、第二位ヨリ少キコト二十名ナリ。最多ナルモノト最少ナル夜九時ヨリ十二時ノ間ノ死亡數トヲ比較セバ、六十五名ノ差アリ。

余ノ得タル結果ノ大略ハ以上ノ如シ。然ラバ之ニ對スル說明アリヤ。正午ヨリ午後六時ノ間殊ニ午後二時ヨリ同五時ノ間ニ死亡數最多ナルハ、夏季ニ於テ殊ニ其%數ノ增加ヲ來タセル結果ニアラザルナキカ。何トナレバ夏季ノ同時刻ハ炎暑最甚シク、吾人ノ身體ニ影響スレバナリ。又熱病殊ニ肺結核ノ如キハ、午後ニ於テ發熱、全身違和等アルヲ以テ、斯クノ如キ狀態特ニ何等カノ關係ヲ有スルモノニアラズヤ。之ガ事實ノ有無ヲ知ランガタメニ、夏期及肺結核ノミニ就キテ調査シ比較スルニ、總表ニ對シテ大差ナシ。肺結核ノ死亡數ノ如キハ却ツテ午前ニ最大%ヲ示セリ。次ギニ午前四時ヨリ七時ノ間ニ死亡者多キハ、冬季ニ於テ殊ニ其%數ノ增加シタルタメナラズヤ。何トナレバ冬ノ夜明ハ吾人ニ最寒冷ガ影響スルヲ以テナリ。故ニ之ガ調査ヲナシタルモ、死亡數ニ特ニ大ナル影響ナキヲ發見セリ。

斯クノ如クシテ吾人ハ一日二十四時間中ノ一定時刻ニ於ケル死亡數ノ上ニ、周圍ノ狀況、例之バ寒暑等ガ特ニ直接ニ大ナル影響ナキヲ知レリ。然ラバ如何ニシテ之ガ說明ヲ試ミントスベキカ、余ハ之ヲ說ク前ニ少シク歐米ノ文獻ニ就キテ略述セン。

第五　死ノ時刻ニ對スル文獻

我ガ圖書館ニ於テ、死ニ對スル文獻ノ豐富ナラザルタメ、死ノ時刻ニ關シテ廣ク文獻ヲ涉獵シ能ハザリシハ余ノ甚遺憾トスル所ナリ。余ハ先ヅ死ノ時刻ニ對スル文獻ヲ醫書●醫事雜誌ニ求メテ得ズ、種々ノ百科全書ニ探リテ得ズ。漸カーリングトン H. Carrington 及ミーダー T. R. Meeder 共著、死ノ研究ヲ得タリ。故ニ余ハ此處ニ唯同書中ニアル死ノ時刻ノ一項ヲ略スルニ止メン。

同書ニ據レバ、

一日二十四時間中特ニ、或時刻ニ於テ死スルモノ多シトハ、統計學者ノ屢言フ所ナリ。此種類ノ研究ニテ紐育ノ博士エー、デー、マーシュ氏ノ最近ノ論文ニ據レバ、時刻ノ能率卽精神的生理的活動ノ滿干ハ人々各自ノ勞働及睡眠ノ習慣ト共ニ千差萬別ナリ。而シテ文明

人ノ社會ニアリテハ、最大能率ノ時刻ハ凡ソ午後五時頃ナルガ如シ。

倫敦ノ英國醫學雜誌ハ、一九一〇年ノ一月號（十八日）ニ、之ニ關スル一論文ヲ掲ゲテ曰ク、是マーシュ博士ノ特種ノ研究ヨリ來タル結論ナルガ、博士ハ又紐育市ニ於ケル死亡ノ記錄ヲ研究シテ、午後五時ハ二萬三千四百三十九件ノ病死中、其多數ノ起リシ時ナルヲ示セリ。午後五時ト云フハ、通例ノ人ガ二十四時間中最多ク活動シツヽアル時ナリ。サレバ人ノ注意ヲ呼ビ起スコトニアリ。又明白ナル矛盾ノ事實ナレバ、我ガ誌ノ古本ヲ繙キテ、死ノ時刻ト稱スベキ問題ニ關スル諸研究ヲ見ルニ、未俄ニ斷案ヲ下シ難ク、更ニ多クノ研究ヲ要スベキヲ見出セリ。

フィンレーソン氏ガグラスゴーノ醫事雜誌ニ、同市官房長ニヨリテ集メラレタル統計ヲ用ヒテ記スル所ニ據レバ、一八六五年ノ一萬三千人ノ死亡記錄中ニテ、其大多數ハ午前五時六時ノ間ニアリ。

シュナイダー氏ハ、伯林ニ於ケル死亡ニ就キテ記シ、午前四時ヨリ七時マデヲ最死亡多キ時トセリ。其材料ハ五萬七千ナリキ。

ベーレンス氏ハフイラデルフィアニ於ケル一千ノ死亡ニ就キテ研究シ、同市醫學時報ニ午前六時●七時ノ間最死亡多シトノ說ニ近キ結論ヲ得タリ。

シー、エフ、ビードルス博士ハ、某養成育院ノ統計ヲ研究シテ其結果ヲ發表セリ。之ニ據レバ、男女ニ據リテ死ノ時刻ニ差異アリ。女一千名中、多數ハ午後六時七時ノ間、男三千四百二十四名中多數ハ午前五時●六時ノ間ナリキ。

サレバ人ノ多ク死スルハ、必シモ何時ヨリ何時マデト狹キ時間中ニ限ラレザルガ如キモ、多數ハ早朝ニ起ルガ如シ。

而シテ英國醫學雜誌ハ、普通病者ハ午前二時頃絕命スルモノナリトハ、世人ノ信ズル所ナレドモ、以上ノ諸說ハ此信仰ノ援助トナルモノナシト注意シ、結論シテ曰ク、

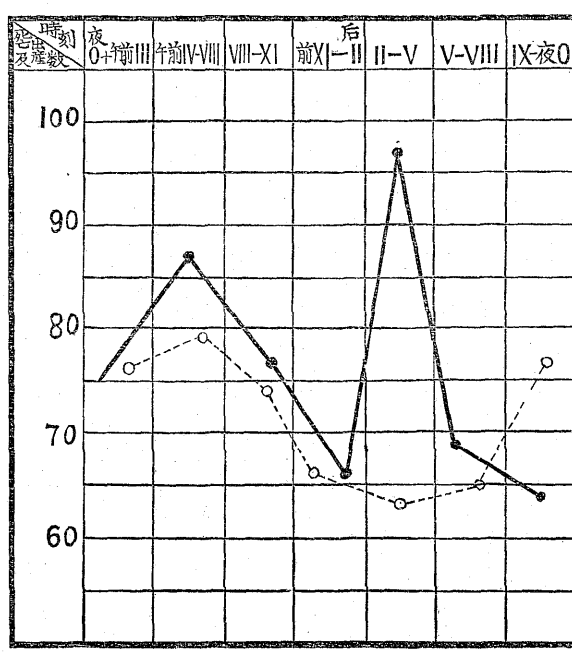
一見シタル所、或ル特種ノ時刻ガ特ニ死亡ニ關係アリトハ確定シ難シ。正確ニ死亡ノ時刻ヲ記錄スルコト難シ。加之、病症ノ性質、其繼續時間、患者ノ年齡及

男女別等モ亦考慮セザル可カラズト。

又金澤地方ニ於テハ、人ハ生レタル時刻ニ死ステフ俗説ヲ信ズルモノアリ。之ニ就キテ某氏ハ語リテ曰ク、氏嘗テ夜間親戚ナル瀕死ノ腦膜炎患兒ヲ診シ、死ノ直前ニ迫レルヲ告グルヤ、傍ニアリシ老婦ハ曰ク、此兒ハ午後二時半頃生レタルヲ以テ其時刻マデ死セザルベシト。果セルカナ、患兒ハ夜明ニ至ルモ死セズ、午後二時頃ニ至リテ死セリト云フ。是素ヨリ何等ノ根據ナキ俗説ニ過ギザランモ、屢偶然ニ斯クノ如ク生ト死ノ時刻ノ相符合スルコトアルハ、俗説ヲ信ズル者ニ多少ノ援助ヲ與フル所以ナルベシ。

茲ニ於テカ余ハ、日本人ノ出産ノ時刻ヲ求メテ、死ノ時刻ト對比セント試ミタリ。亦多少ノ興趣ナシトセズ、而シテ余ハ茲ニ近藤正信氏ノ日本婦人ノ分娩時間ニ就テノ統計ノ一論文（岡山醫學會雜誌、二八八號十六頁）ヲ得タリ。氏ノ調査ニ據レバ、人ノ生ルヽハ午前二時—午前九時最少シト云フ。尚少シク詳細ニ同氏ノ掲ゲラレタル各一時間ノ出産數ヨリ算出シテ、余ノ各三時間ニ於ケル死ノ調査成績トヲ弧線ヲ以テ比較セバ、上ノ如シ。但シ同氏ノ調査數ハ五七五人、余ノ調査數ハ一一八〇名ナルヲ以テ、余ノ得タル死亡數ヲ二分セバ、同氏ノ調査數ニ稍一致スル數トナリ、弧線ヲ對照スルニ便宜ナルヲ以テ、各三時間ノ死亡數ヲ假ニ二分シテ表スコトヽセリ。

第五表



尚同氏ノ擧ゲラレタル數字ニヨリ、之ヲ概觀スルニ、一日二十四時間ヲ四分シテ觀察セバ、出産ハ最多ク夜ノ

十二時ヨリ朝ノ六時ノ間ニ起リ（一六〇）、之ニ次ギ午前六時—正午（一四五）、正午—午後六時（一三九）午後六時—夜十二時（一三一）ノ順序ナリ。而シテ夜ハ晝ニ比シテ出產多シ。但シ其差ハ凡テ甚僅少ナリ。斯クシテ死亡ノ時刻ト出產ノ時刻トハ、一部分稍一致スルガ如キ觀アル所ナキニアラザルモ、總ジテ却ツテ其反スル所多キヲ觀ル。此比較結果ニヨリテ、前述ノ俗說ニ何等ノ根據ヲモ與ヘザルヲ知ルベシ。

尙俗間潮ノ滿干ニヨリテ人ノ生死ヲトシ得ベシト唱フルモノアリ。卽人ハ滿潮ニ生レ、干潮ニ死スベシト。然レドモ繁雜ナルヲ以テ玆ニ記錄セズ。

第六　死ノ時刻ニ對スル私見

余ノ調査成績ニ據レバ、人ノ死ハ午後二時ヨリ五時ノ間ニ最多ク、午前四時ヨリ七時ノ間之ニ次ゲリ。

吾人ハ之ニ對シテ如何ナル說明ヲ與フ可キカ、以上表示ノ如ク、各時刻ニヨリテ其死亡數ニ多少ノ差アリト雖、其差ハ比較的僅小ナルヲ以テ、之ガ科學的說明ヲ試ミントスルハ頗困難ニシテ、前記英國醫學雜誌ガ論ジタルガ如ク、諸種ノ條件ニヨリテ左右セラルベク、之ヲ的確ニ決定シ、若クハ說明スルコト難シト云フヲ以テ、穩當ナル解釋ト云フヲ得ベキカ。然レドモ諸家ノ研究ヲ一瞥スルニ、人ノ死ハ午後五時頃又ハ夜明ノ四時乃至七時ノ間ニ最多ク起ルテフ事實ハ稍一致スルノ觀アリ。加之、余ノ試ミタル調査成績ノ、亦之ニ符合スルガ如キハ一奇ト云フベシ。余ハ廣ク文獻ヲ徵スル能ハザリシヲ以テ、此處ニ諸家ガ如何ニ說明ヲ加ヘタルカヲ詳細ニ知ルコトヲ得ザルモ、試ニ之ニ對シテ多少ノ私見ヲ記述セン。

外界ノ影響例之バ寒暑等ガ、死ノ時刻ニ對シテ特ニ直接ニ影響殆ナカリシコトハ前述ノ如シ。然ラバ內的ノ變化例之バ新陳代謝ノ狀況ハ、死ノ時刻ノ上ニ多少ノ影響ヲ及ボスモノニハアラザルナキヤ。換言スレバ、死ハ最多ク身體內新陳代謝ノ極度ニ亢進セル時刻、又ハ最沈滯セル時刻ニ起ルモノニアラザルナキヤ。何トナレバ、諸家ノ研究及余ノ調査成績ニ於テ、死ハ最多ク正午ヨリ午後六時殊ニ午後二時—五時ノ間及夜明ノ四、五、六、七時ノ間ニ起リタレバナリ。種々ノ實驗及吾人ガ日常熟知スル體溫ニ就テ之ヲ見ルモ、正午ヨリ午後六時頃マデハ新陳代謝ノ最亢進セル時刻ニシテ、夜十二時ヨリ漸次下降

シテ、夜明ヨリ早朝ニ至リテ最沈降スベキハ明カナリ。卽新陳代謝ノ極端ヨリ極端ニナレル時刻ニ於テ、人ノ死ハ最多ク起レリト云フヲ得ベカラズヤ。勿論新陳代謝ノ變化ハ、生活法其他個人ニヨリテ多少ノ差異アルヲ免レズト雖、斯クノ如キ代謝ノ關係ハ、是吾人々類ノ何千年來ノ傳襲否習慣ナリ。然ラバ新陳代謝ノ極度ノ亢進又ハ沈降ハ、如何ニシテ死ヲ起シ易キカ、吾人亦茲ニ說明ノ難關ニ立テリ。然レドモ吾人ヲシテ少シク思フ所ヲ語ラシメヨ。代謝ノ極點ニ上昇セル時又ハ沈降セル時ハ、其結果體內ニ何等カノ化學的變化否然ラズトスルモ身體組織ニ何等カノ不調和ヲ生ズルコトナキヤ、若假ニ斯クノ如キ不調和ヲ招來スルコトアリトセバ、衰退セル細胞組織ノ死ヲ誘起シ易シト云フヲ得ベカラズヤ。例之バ代謝ノ最亢進セル時卽甚シク過勞スルコト、代謝ノ沈降卽餘リニ無爲的生活ガ、吾人身體ノ細胞組織ニ良結果ヲ來タサズト云フガ如キ事實ニ多少ノ類似點ヲ見出ス能ハズヤ。茲ニ其代謝ノ亢進又ハ沈降ニ據リテ起ル變化ハ僅微ナルモ、今ヤ死滅セントシツヽアル細胞ニハ、相當ノ刺戟トシテ作用シ得ルニアラズヤ。斯クノ如クシテ余ハ、余ノ調査成績ニ對シテ多少ノ說明ヲ試ミタリ。然ラバ死ニ早朝ニ最多キヤ又ハ午後五時頃最多キヤ、余ハ兩者ノ差ニ僅ニシテ、恐クハ兩者互ニ甲タリ乙タルモノナラント云ハント欲ス。歐米諸家ノ統計ニ於テ之ヲ見ル。

以上論述セル所ヲ約言スレバ、人ノ死ハ何時ノ時刻ニ於テモ起リ得ルモノナリ。然レドモ吾人ノ觀察ニ據レバ、午後ノ二時ヨリ五時ノ間及夜明ノ四時ヨリ七時ノ間ニ最多ク起リ、ソハ一部分新陳代謝ノ關係ヲ以テ說明シ得ズヤト云フニアリ。各時刻ニ於ケル死亡數ノ差ノ比較的僅小ナルダケ、ソレダケ之ヲ十分ニ科學的ニ說明セントスルハ妥當ナラザルガ如ク、强テ之ヲ說明セントセバ、牽强附會ノ弊ニ陷リ易キヲ免レズ。余ハ唯此處ニ聊管見ヲ陳述シテ、大方諸君ノ高敎ヲ仰ガントスルニ過ギズ。

第七　總括

一　余ノ調査成績ニ據レバ、人ノ死ハ最多ク午後二時乃至五時ノ間ニ起リ、早朝四時乃至七時ノ間之ニ次ゲリ。是歐米ノ文獻ニ一致スル處ニシテ、故ニ余ハ、人ノ死ハ最多ク體內ノ新陳代謝ノ極度ニ上昇スル時刻、又ハ最沈降スル時刻ニ起リ易シト云ハントス。

二　時間的ニ云ヘバ、午後ノ二時・三時ノ間最多ク、之ニ次ゲルハ早朝六時・七時ノ間ナリ。

三　一晝夜二十四時間ヲ四分セバ、人ノ死ハ最多ク正午ヨリ午後六時ノ間ニ起リ、午前六時ヨリ正午ノ間之ニ次ゲリ。第三位ハ夜十二時ヨリ朝六時ノ間ニシテ、午後六時ヨリ夜十二時ノ間最少シ。

四　人ノ死ハ夜間ヨリ晝間ニ多シ（約一〇％ノ差アリ）。

五　人ハ生レタル時刻ニ死スベシトノ俗說ハ、余ノ調査成績ト近藤正信氏ノ出產時刻トヲ對比シテ、此處ニ何等ノ根據ヲモ與ヘザルヲ知レリ。

終リニ學兄中村欣一郎氏ノ好意ヲ感謝ス。（完）

通信

●大瀧經氏通信

（大正二年卒業。婦人科醫局宛）

（前畧）境遇の變化とは云へ今の僕の生活じや精々一週に一日しかゆつくり落着いて飲んで浩然の氣を養ふ日はない午後五時半の歸營時間だから餘り呑氣に恐悅がつてゐる事も出來ない

兄等は相變らず大の元氣で專門の學科を勉强し傍々充分氣を養つて愉快なる日を送つて居る事と羨しう思ひます

去四月五日帝大にて病理學會總會に出席聽講し圖らずも恩師下平、福士兩先生にお會ひ申しました然し日曜でなく無理から願つた休日でもあるし又他に用事もあつたので緩々話しすることも出來ず却つて失禮しました四月からは自分等は一等卒の階級に昇進し一年志願兵として特別教育を受ける事となつた中々樂も出來ず毎日〳〵少くも七時間半位學科（陣中要務令軍制學、測圖學、銃劍術）あり演習よりひどい

演習は一週に二日（月、金）のみにて却て近頃は運動不足を感ずる位である軍隊生活で將來規則正しく事務を執ることが出來又身体を强健ならしむることが出來ればそれで充分であると思つて居る夫れに在營中フレンチを勉强する積りであるドイツも文法の極初めより始めることゝしてゐます

近頃では醫學的頭も大分退歩したので悲觀しかし日曜日位は少しは頭を醫學的方面に傾ける樣努めてゐます

自分は何時も元氣で体も至極强健です（後畧）

東京赤坂歩兵第一聯隊第一中隊　大瀧經

四月十日

雜報

●福士博士

本校病理學及法醫學教授福士政一氏は去四月十五日醫學博士の學位を受領せられたり全博士は東大醫科を卒業後永く病理學教室に止りて深く斯學を